

食料危機の解決に資する 農業や食料関連ビジネスに注目

資産運用サポート部グループマネージャーの西岡佑氏に聞く

日興アセットマネジメントは、農業（アグリカルチャー）や食料（フード）などに関連するビジネスを行う世界の企業の株式を主な投資対象とする追加型投信「グローバル・アグリカルチャー&フード株式ファンド」を7月29日に設定、運用を開始した。ファンド設定の背景や特徴、魅力などについて、資産運用サポート部グループマネージャーの西岡佑氏に聞いた。SMBC日興証券が、7月25日より取り扱いを開始している。



フードテック分野

クラウドサービスに匹敵する規模に成長へ

温暖化や人口の増加などを考えると、食料危機の問題は待ったなしの状況にあるのだ。

さらに地政学リスクの高まりが、食料危機に拍車を掛けている。ロシアによるウクライナ侵攻でコモディティ価格が上昇している。両国が輸出上位国である小麦、トウモロコシ、大豆の19年1月～20年4月まで約3年間の上昇率はそれぞれ2.1倍、2.2倍、1.9倍である。肥料の原料であるアンモニアやカリウムも上昇している。これらもロシアが主要な生産国であり、肥料価格の上昇は農家の調達コストの上昇につながる。農家も食料問題をいかに解決していくのか重要となっているのだ。

課題解決の手段として代替タンパク・高機能食品や脱プラスチック・リサイクル資材、バイオ燃料・廃棄物利用、飼料の改良・動物福祉、精密農業、屋内農業などが、様々な角度から模索されている。これら食料危機や地球温暖化への対策は急務であり、これらの問題の解決に資する農業・食料関連技術やビジネスモデルを持つ企業に注目が集まっている。例えば、フードテック。テクノロジーを活用した食料分野である。市場規模は27年には19年と比べ約55%増、3425億米ドルまで拡大すると予測されている。現代世界に欠かせないクラウドサービスの20年の市場規模（約3280億米ドル）と、フードテックの分野の市場規模が同程度になると予想されている。フードテック市場へは毎年大きな資金が流入し、その投資額も年々拡大していること注目だ。

■設定の背景

当ファンド設定の背景の1つ目は、地球温暖化や人口増加、地政学リスクなどの高まりから世界的な食料危機に直面しつつあり、それらを解決する手段として農業・食料関連の技術に期待が高まっていること。2つ目は、足元で物価が上昇しており、物価上昇にも耐性のある投資先にニーズが高まっているためである。

当ファンドが投資対象としている農業や食料分野においては、特に川上の産業の多くは商品価格の上昇などを価格に転嫁することができ、それにより収益増加につながる可能性がある。収益増加はひいては株価にもプラスのリターンとして期待できる。

■食料危機を招く多様な問題

地球温暖化が食料危機を誘発する。海面上昇による塩害、自然災害、害虫増加などの原因となる地球温暖化は、農作物の収穫量に影響を及ぼす。化石燃料に依存して発展していくと2100年末には最大5.7℃気温が上昇すると予想されている。過去170年で約1℃程度上昇したものが、今後約80年で5.7℃上昇となれば、この数値がいかに大きな数値であることが分かる。地球温暖化は農作物の収穫量の減少につながる可能性があり、地球温暖化が引き起こす多様な問題により食料危機が深刻化する可能性が高まっている。

また水不足も深刻である。世界の水需要の7割は灌漑（かんがい）用水（農業用水）が占めている。

農作物を作るには多くの水が必要である。例えば、コメ1キログラム作るには約3000リットル、小麦1キログラム作るには約2100リットル、トウモロコシ1キログラムを作るには約1800リットルと、多くの水が必要とされる。世界的な水不足は食料危機をさらに深刻化させる懸念がある。

また世界人口の拡大も食料危機を発展させる要素である。2010年に約70億人だった世界の人口は2050年には約100億人に増加することが見込まれており、2010年～2050年にかけて約40%増が予想されている。2010年の食料の生産量は1万3100兆カロリー、2050年の食料の需要量の予想は2万500兆カロリーで約56%増の計算となる。つまり、現在の食料生産量では2050年の需要量を賅うことができない、フードギャップが生じることが予想される。そのため、農業の生産性の向上、新しい食材の開発、あるいはフードロスの軽減などが重要となる。

世界の人口以上にフードギャップの差が大きくなる背景には、カロリー消費量の増加がある。新興国では経済成長に伴う人々の食への関心の高まりを背景に、中食の変化が起きていく。例えば中国では、1990年の牛肉の消費量が107万トンドだったが、2020年には860万トンに増加している。860万トンの牛肉の消費量を賅うためにはトウモロコシ9460万トンが必要とされる。9460万トンは、世界第3位の生産国であるブラジルの年間生産量に匹敵する大規模なものとなる。地球